

メータオ・クリニック支援の会(JAM)支援者の皆様

いつもご支援していただき誠にありがとうございます。

JAM 会報メール第5号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足された NGO です。

ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を会報メールにて毎月発信させていただきたいと思ひます。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

メニュー

- 最新メータオニュース
- きょうのゆめ
- ミャンマー／ビルマの文化通信
- 毎日新聞「ひと」欄の掲載

■ 最新メータオニュース

今から20年前、1989年2月にシンシア医師によってミャンマー／ビルマの難民、移民のための無料診療所メータオ・クリニックは設立されました。設立から20年が経過した今、タイ・ミャンマー／ビルマの国境付近に住むミャンマー／ビルマ人15万人の医療を支えています。

設立20周年を迎える今年、来月の2月19日にメータオ・クリニック設立20周年記念セレモニーの開催することが決まりました。来月の会報メールにてセレモニーの様子をお伝えしたいと思ひます。

■ きょうのゆめ

クリニックでは学校保健活動を中心に 54 校のマイグラントスクール(ビルマ人の移民学校)を運営・管理しています。JAM の活動のひとつとしてそれらの学校を対象とした学校保健の活動を行っています。現地のスタッフがそれらの学校を訪れ、そこで勉強している子どもたちの声を毎月発信していきたいと思ひます。



今月はトゥー・マ・キー(Thoo Mweh Khee)と呼ばれる学校に通うパー・トゥリーちゃん14歳。メータオ・クリニックがあるメソット郡から車で南下して1時間ほどの場所にあるポット・プラ郡の学校です。周りは山と畑に囲まれのどかな場所に



写真上：学校の裏 写真下：学校の校舎

ある学校です。生徒数は320名。小学校、中学校、幼稚園、孤児院がある大きな学校です。

そこで勉強するパー・トゥリーちゃん14歳。両親と2人の妹がいる5人家族ですが、パートゥリーちゃん以外の家族はミャンマー／ビルマのカレン州に住んでいます。現在パートゥリーちゃんは学校に併設されている孤児院で暮らしています。現地スタッフがどうしてこの学校で勉強しているのかと聞くと、「以前は小学校までミャンマー／ビルマの中で勉強していました。軍事政権により私の村には中学校、高校がなくなりました。勉強がしたいのでひとりでタイのこの学校を訪ねました。」と質問に答えてくれました。パートゥリーちゃん将来の夢は看護師になってミャンマー／ビルマにある自分の家族が住んでいる村の人々を助けることです。



家族のこと、自分の故郷を思い毎日勉強しているパートゥリーちゃんのまなざしはとてもまっすぐとしていました。

写真上：パー・トゥリーちゃん（14歳）

■ ミャンマー／ビルマの文化通信ーモヒンガー



ミャンマー／ビルマの朝ごはんとして有名なものは麺料理のモヒンガです。朝のタイ・メソットの市場でモヒンガを食べているミャンマー／ビルマの方をみかけます。

写真左：朝のタイ・メソットの市場

このモヒンガの麺はお米からできている細い麺です。スープは、ナマズまたは淡水魚によってだしをとります。豆によってだしをとるときもあります。モヒンガのトッピングにはバナナの茎やチリ、ナッツ等をかけます。ミャンマー／ビルマ料理をお食事する機会がありましたら、ぜひ朝の風物詩モヒンガをご試食してみてくださいはいかかでしょうか。



写真左：モヒンガ

写真右：モヒンガのナマズスープ

■ 毎日新聞「ひと」欄の掲載

1月20日の毎日新聞朝刊の「ひと」欄にて、JAM 現地スタッフの梶藍子(かじ あいこ)が、「タイでミャンマー難民を支援する看護師」として紹介されました。

まだご覧になっていない方は、ぜひ以下の URL をご覧ください。

<http://mainichi.jp/select/opinion/hito/news/20090120k0000m070139000c.html>



メータオ・クリニック支援の会

Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て E メール: support@japanmaetao.org

ホームページアドレス: www.japanmaetao.org

